

Linux Security 64 と Linux Security 11.xx の機能差/LS64 へのバージョンアップについて

Linux Security 64 と Linux Security 11.xx の機能差について(2021 年 6 月 29 日時点)

製品の比較表

	LS64	LSFE 11.xx	LSCE 11.xx
リアルタイムスキャン	○	○	X
マニュアルスキャン	○	○	○
スケジュール検査	○	○	○
ファイアウォール	△(※1)	○	X
改ざん検知	○	○	X
パターンファイル自動更新	○	○	○
ソフトウェア自動更新	○	X	X
スタンドアロン対応	○	○	○
オフライン環境対応 (インターネット接続不可/PM あり)	○	○	○
セキュリティクラウド	○	X	X
GUI	△(※2)	○	X
集中管理	○	○	X
RHEL/CentOS 対応	V7.xx V8.xx	V6.xx V7.xx	V6.xx V7.xx

*1 現状では未搭載、今後のアップデートにて搭載予定

*2 ローカル GUI 無し(※)。Policy Manager (PM)の GUI で設定/管理

※lsctl コマンドでの LS64 単体の CUI 設定が可能となりました。

*3 RHEL/CentOS 7.xx に関しては、Version 7.3 以上がサポート OS になります。

1. F-Secure Linux Security 64 (LS64) の主な機能

a. リアルタイムスキャン

ファイル操作をトリガにファイルをスキャンします。対象ファイルがクリーンな場合だけそのファイル操作を許可します。

b. マニュアルスキャン

スキャンを実行するコマンドを提供します。お客様はコマンドへの引数でスキャンしたいファイルやディレクトリを指定することで、対象のファイルやディレクトリのファイルのスキャンを明示的に行うことができます。

c. 完全性検査

ファイルの改竄を検知する機能を提供します。

d. セキュリティクラウド

F-Secure のセキュリティクラウドへ接続して、オンラインレピュテーションを行うことが可能です。疑わしい URL やファイルのハッシュ値をセキュリティクラウドへ送信し、最新の脅威データベースにて判定をします。

2. 従来製品からの変更点

- a. LS64 は完全な 64bit Linux 対応製品となります。従来のような 64bit Linux に対し 32bit 互換パッケージを追加する必要はありません。
- b. LS64 を利用するためには Policy Manager (Windows/Linux) のバージョン 14.20 以降が必要です。インストーラ作成/ウイルス警告等
- c. 本リリースから単体での製品インストーラ (RPM 等) は提供されなくなり、JAR ファイルを使い Policy Manager にてインストールパッケージを作成するようになりました。また LSFE にて利用していた PostgreSQL は不要になりました。
- d. LSFE の Web UI は廃止され、Policy Manager Console に統合されました。Web UI での設定項目内容と同等の設定を行うことが可能です。これに伴い Tomcat やそこで使用していた JRE は不要となりました。
- e. ファイアウォール機能は今後のアップデートで追加する予定です。
- f. LS64 スキャンアーキテクチャは従来製品とは異なり、速やかにスキャンを完了させる最適チューニングが施されおります。結果外して CPU 使用率が利用可能な最大まで増加する事がありますがこれは意図的な設計となります。ウイルス LS11.xx で可能であったユーザでの細かなパフォーマンスチューニングは許可されておられません。
- g. オフラインパターンファイルの更新方法
LS11.xx でご利用頂いていた、fsdbupdate9.run は LS64 ではご利用いただけません。PolicyManager から生成した offline-update というツールを使用して更新作業を行っていただきます。
<https://www.f-secure.com/content/dam/f-secure/ja/business/support-resources/knowledge/LS64offlineInstallation.pdf>
- h. 製品オートバージョンアップ
LS64 はウイルス定義パターンファイル内に製品新バージョンが含まれ、自動アップデートが実施されます。”Pinnable Linux Security 64 version”で自動アップデートをピン留めですが、旧バージョンで問題が発生した場合はバージョンアップを行ってください。
<https://community.f-secure.com/en/discussion/117646/linux-security-64-change-log/>
※Pinnable Linux Security 64 version 情報記載

3. LS64 利用時の注意点

- a. アーカイブスキャンを実行実行時の展開先
アーカイブファイルの一部をメモリ上に展開するか、または全てのファイルを以下のフォルダへ展開します。当ディレクトリ単体を別ドライブに設定する事はできません。(2021年6月29日時点)

/var/opt/f-secure/baseguard/fsicapd/tmp/

4. ライセンスキー

本製品には LS64 のライセンスキーが必要です。別途ご登録のエンドユーザ様へご案内しているライセンスキーをご利用ください。

5. 動作環境

以下の OS で動作します。動作環境は予告なく変更されることがありますので、詳細はリリースノートを参照してください。

<https://help.f-secure.com/product.html#business/releasesnotes-business/latest/en/fs|s64-latest-en>

6. 新規インストール方法

以下のドキュメントをご参照ください。LS64 のインストールにはポリシーマネージャ（管理ツール、無償提供品）が必須であり、弊社ダウンロードサイトにて提供している jar ファイルからポリシーマネージャにてインストーラを作成する必要があります。

「Linux Security 64 インストールガイド.pdf」

[http://images.secure.f-secure.com/Web/FSecure/\[d5c435e6-20db-44cc-ad15-30ff28a6f804\]_Linux_Security_64_インストールガイド_.pdf](http://images.secure.f-secure.com/Web/FSecure/[d5c435e6-20db-44cc-ad15-30ff28a6f804]_Linux_Security_64_インストールガイド_.pdf)

7. 従来製品(LS11.xx)からのアップグレード

- a. 設定情報の管理方法やインストール方法が異なるために、従来製品である LSFE, LSCE からのアップグレードは行なえません。LS11.xx をアンインストールし、LS64 の新規インストールを行って下さい。
- b. Policy Manager/Ineternet Gatekeeper が同居している場合、LS11.xx をアンインストールする際に F-Secure ディレクトリすべてを削除すると、F-secure 製品が正常稼働しなくなります。LS11.xx のみをアンインストールコマンド(※)で削除し、関連フォルダは削除しないでください。
https://help.f-secure.com/product.html?business/linux-security/11.10/ja/concept_315DD03AF26E4C7799D786DC9E9C0C0E-11.10-ja
- c. 設定情報引き継がれませんので、従来製品での設定内容エンドユーザの要件を確認して下さい。稼働中の LS11.xx のシステムファイル等をサポートで解析する事はできません。